

たわ

撓まず屈せず

—スクラムかまいし
復興まちづくりの現在—

2012年6月15日

釜石市長 野田武則

釜石市の位置と地勢、概要



釜石市のマスコット「かまりん」



- ・人口4万人弱（昭和38年は9.2万人）
- ・市街地面積11km²（全市443km²の2.4%）
- ・154年前に日本初の洋式高炉で出鉄成功
- ・気候温暖、好漁場に面し水産業も盛ん
- ・「鉄と魚とラグビーのまち」を自負
- ・過去に度々、津波震災や戦災を受難



震災前の美しい釜石



急峻な地形と、市街地を守る、
ギネス登録の釜石湾口防波堤

海に面する東部地区(中心市街地)





釜石市の津波映像

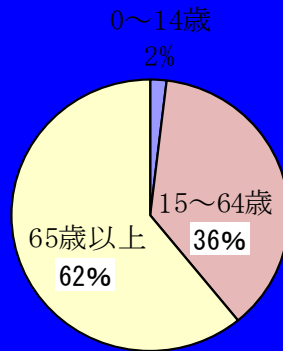


釜石市の被災状況①

▼釜石市の浸水区域(7km²)

- 震度: 震度6弱(釜石市中妻町)
- 死亡者数: 889人(3/29現在)
- 行方不明者数: 157人(3/29現在)
- 被災家屋数: 4,614戸(市内全住家16,182戸の約29%)

▼年代別被災割合



釜石東部地区(被災率46.2%)



鶉住居地区(70%)

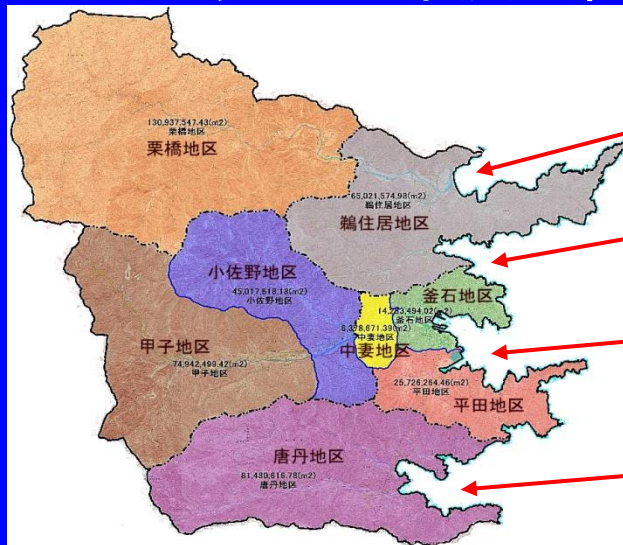


唐丹地区(41.2%)



釜石市の被災状況②

・湾によって異なる津波の高さ(国土地理院参考数値)



大槌湾(鶺住居・片岸地区)

・浸水高17.2m、遡上高19.2m

両石湾(鶺住居地区両石町)

・浸水高20.4m、遡上高28.4m

釜石湾(釜石・平田地区)

・浸水高11.2m、遡上高11.8m

唐丹湾(唐丹地区)

・浸水高19.7m、遡上高19.9m



釜石港湾口防波堤



小白浜防潮堤

震災直後の避難・応急復旧① 避難所

・避難所64箇所、避難者9,883人（ピーク時）

→ 8月10日にすべて閉鎖（全員仮設住宅に入居済み）



震災直後の避難・応急復旧② 自治体等支援

・自治体からの応援職員の派遣に感謝

特に自衛隊、警察、消防、海保等の遺体捜索チーム、
医療・保健支援チームに感謝



震災直後の避難・応急復旧③ ボランティア

- ・市内で活動されたボランティア累計:39,879人(H24.3月末現在)
- ・内陸拠点から車移動のため大渋滞が発生し、課題も顕在化



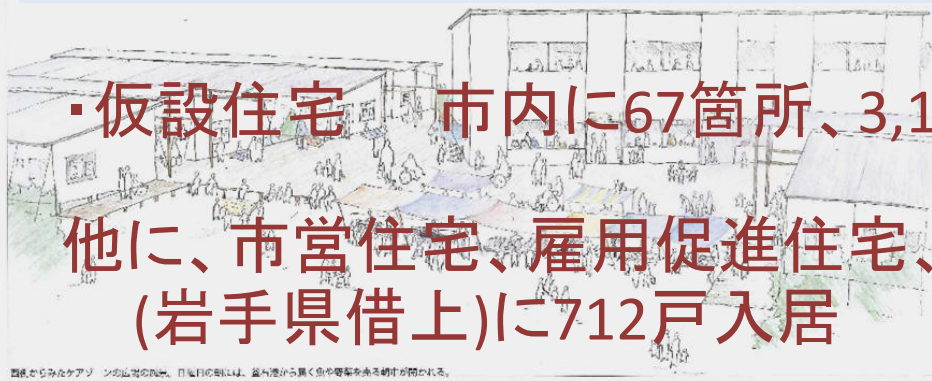
震災直後の避難・応急復旧④ 仮設住宅

・仮設住宅 市内に67箇所、3,164戸を整備

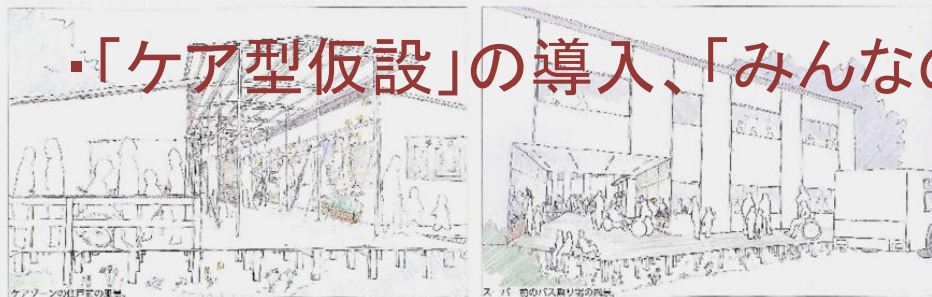
他に、市営住宅、雇用促進住宅、県営住宅、民間賃貸住宅
(岩手県借上)に712戸入居

・「ケア型仮設」の導入、「みんなの家」整備の支援等

注目される福祉型仮設住宅(平田公園)



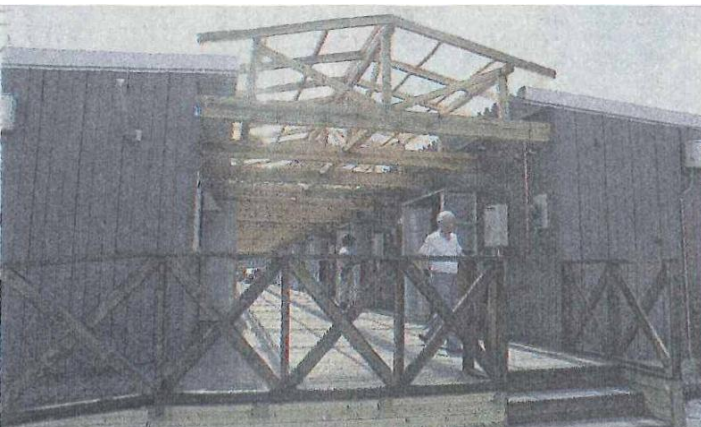
福祉からみたケアゾーンの広場の設計。住民同士の交流、互いの助け合い、互いに支えあえる環境が創られる。



ケアゾーンの住戸間の風景。

スロープの入り組む設計。

コミュニティケア型仮設住宅地の提案
岩手県釜石市 2011/5/16 縮尺(A3) 1:1000 イメージスケッチ ver.02 5



ウッドデッキで住戸間をつなぐなど工夫を凝らしたコミュニティケア型仮設住宅—釜石市平田



震災直後の避難・応急復旧⑤ がれき処理

- ・災害廃棄物の推計値：発生量約82万t
（がれき約53万t、津波堆積物約29万t）
- ・既撤去率約80%（解体対象建築物 約1000戸）
- ・数値目標 資源化率50～70%、地元還元率50%以上、
総事業費約300億円



防災体制に対する反省・教訓

- ①情報伝達体制の不備
- ②避難環境の未整備
- ③警報に対する「慣れ」
- ④学校防災教育の効果

【アンケート実施】 釜石市民を対象とした東日本大震災の津波避難に関するアンケート
群馬大学 広域首都圏防災研究センター 災害社会工学研究室

反省と教訓① 情報伝達体制の不備

＜津波襲来前の津波警報の取得状況＞

- ・大津波警報が発表されたことを知ることができなかった 30.0%
- ・避難指示が発表されていることを知ることができなかった 42.3%

- 大津波警報の津波高さ「3m→6m→10m」が周知されず。
⇒消防団活動等、震災初動に影響した可能性あり。
- 電源喪失で外部との通信途絶。
⇒被災状況の把握や救助要請がスムーズに行えず、あらゆる初期行動に混乱。バックアップ電源確保の重要性を痛感。



防災対策の反省と教訓② 避難環境の未整備

- ・避難場所が遠い場合、高齢化の進行に伴う避難困難者の増加により、避難意欲の減退が増長される。
- ・避難ビル・避難路・高台避難所等、避難しやすい場所の確保が必要



防災対策の反省と教訓③ 警報への「慣れ」

＜津波襲来への反応＞

- ・津波に襲われるとまでは思わなかった 44.0%
- ・避難の必要性を感じなかった 29.4%
- ・2010年のチリ地震等、過去の大津波警報発令による「慣れ」、「後遺症」の可能性あり
- ・切迫感ある避難行動の形骸化の可能性あり



防浪施設への「過信」は絶対に慎むべき！

防災対策の反省と教訓④ 「学校防災教育」

- ・教育委員会が継続的に取り組んだ「学校防災教育」が、今回、大きな注目を集めた
- ・「津波てんでんこ」「最善を尽くせ」「想定を信じない」教えて、サバイバル力が育成されたことを実証



安全確保

- ・住民の避難を軸に、土地利用・避難施設・防災施設の整備などを組み合わせた総合的な安全の確保

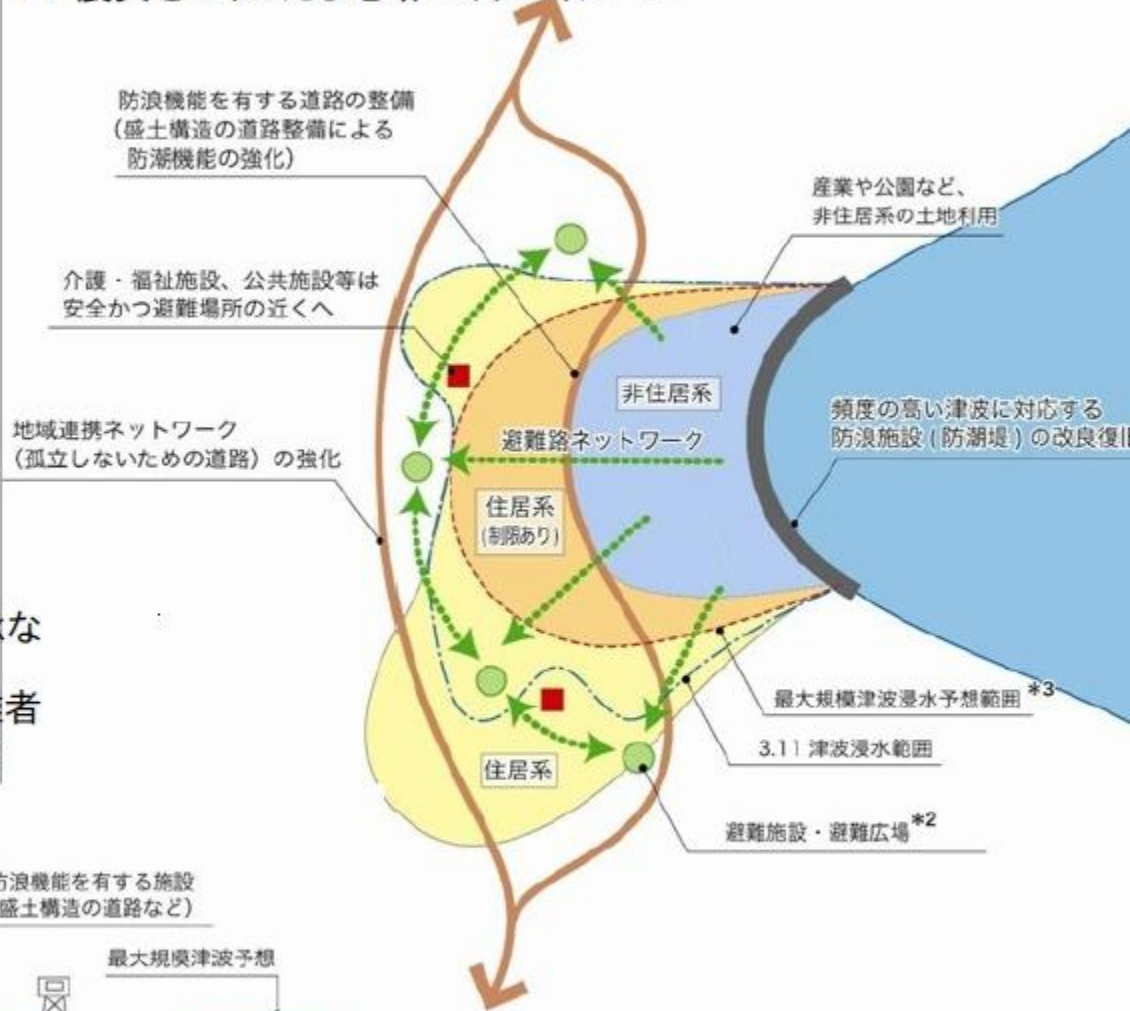
住まいの再建

- ・自力では住宅の確保が難しい方々のため、災害公営住宅を整備
- ・多重防災により一定の安全性を確保した住宅用地を確保

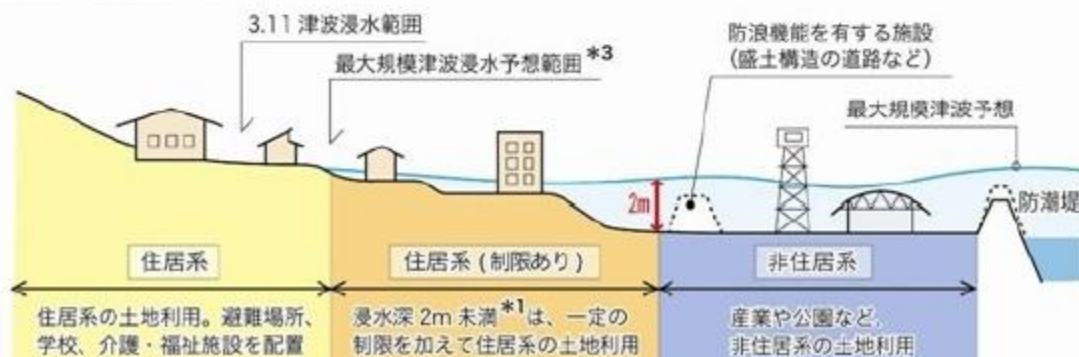
避難のしくみづくり

- ・防災教育、避難訓練、被害や教訓の継承などを通じたより一層の防災意識の啓発
- ・迅速な情報伝達や高齢者等の避難困難者対策など、円滑に避難できるしくみの構築

■ 震災をのりこえる地域づくりのイメージ



土地利用断面イメージ



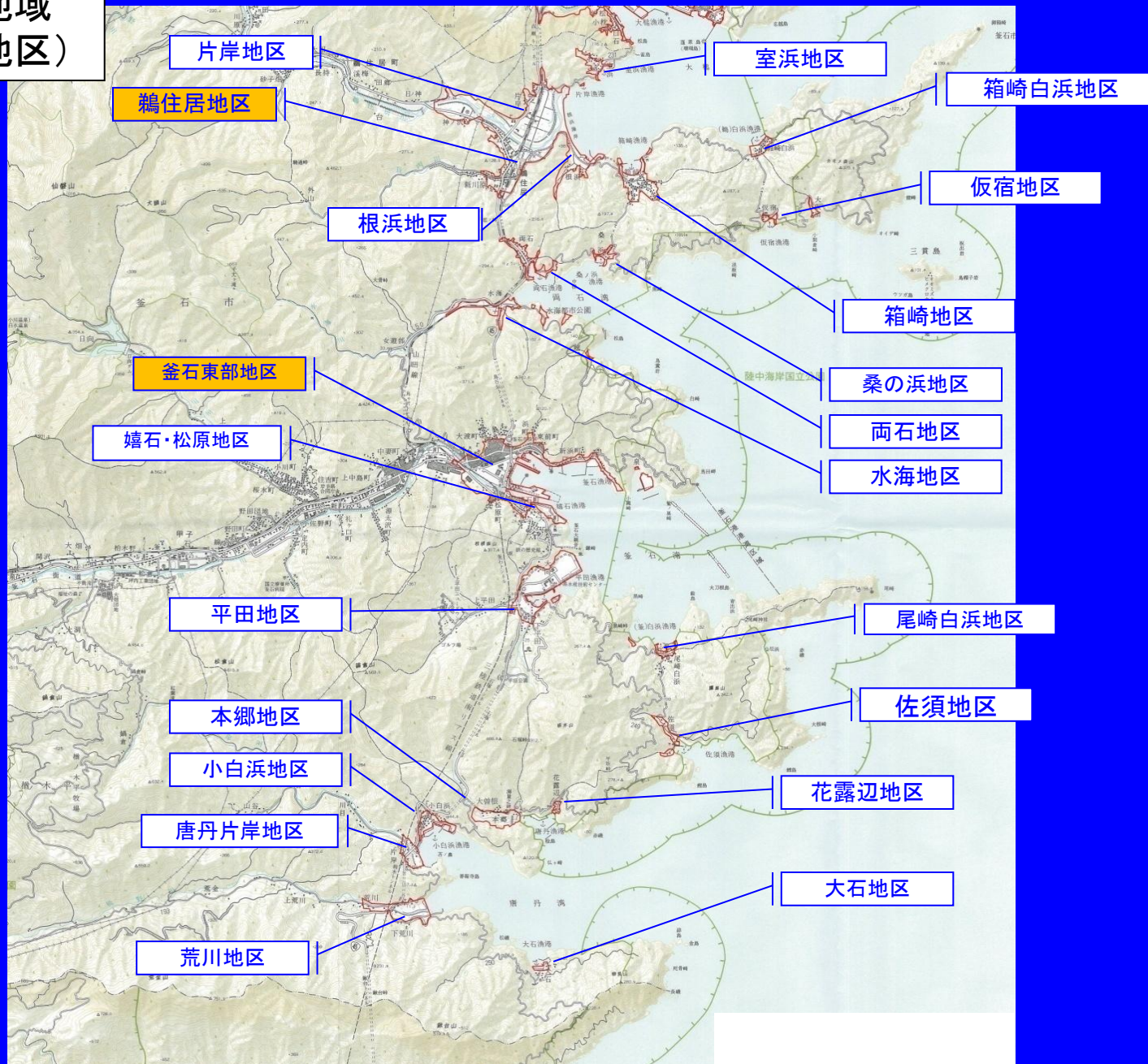
津波防護レベル1

頻度の高い津波に対し、防潮堤や防潮堤で浸水を限りなく小さくする

津波減災レベル2

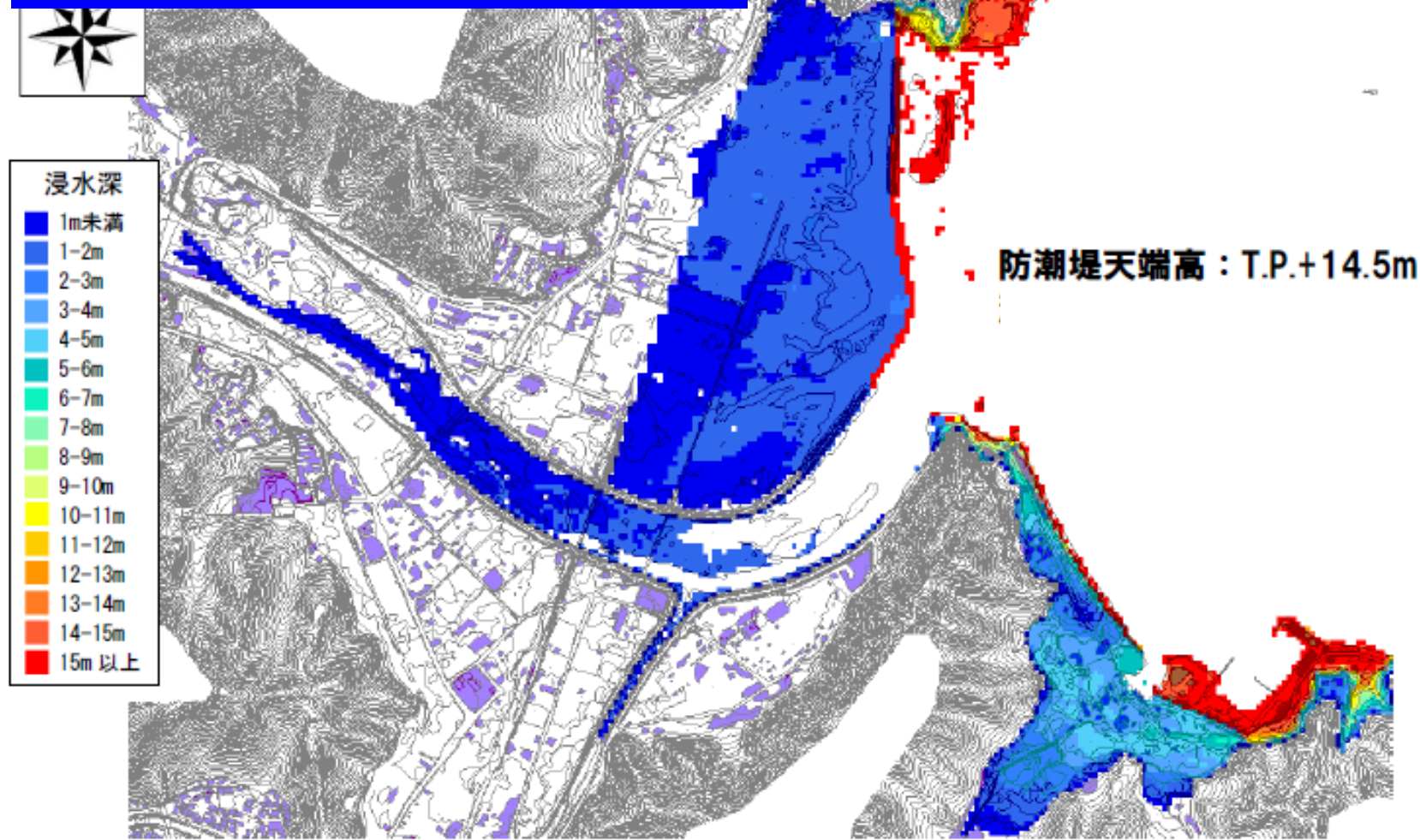
最大クラスの津波に対し、ハード整備とソフト対策を組み合わせ、確実に生命を守る

津波被災地域 位置図(21地区)



片岸・鵜住居・根浜・箱崎地区

【津波シミュレーション】



片岸・鵜住居・根浜・箱崎地区

まちづくりのイメージ

生活・賑わい・働く場の復興

公共施設等の重要施設を安全な場所に建設
生活・防災拠点としての教育環境整備
防災モデル校の整備や防災教育の推進



津波防災教育拠点

スポーツ交流拠点

体育館

ラグビー場

漁業とレクリエーション

レクリエーション拠点

レクリエーション資源である砂浜の復元
防潮林、ハマナスの復旧

第2種漁港の地の利を活かした
シャリーナ機能、トライアスロン
スポーツ系、グリーンツーリズム
として海洋型公園を再整備

傾度の高い津波に対応する防潮堤(高さ14.5m)
の改良復旧と水門を改修

JR山田線の復旧

県道吉里吉里・釜石線の改良

国道45号の改良

JR山田線東側は、万一の洪水
に備え公園等を整備し、津波
を受け止める

防潮壁を5.6mで高圧復旧

魚船船庫

フィッシャリーナ

新築市道通船道

防災機能を有する道路の整備
防災上より野良種を確保の意
水から安全高圧

スタジアムの建設と2016年国体、2019年ラグビー・ワールドカップや
市外の賑わいを呼び込むスポーツ大会の開催



- 凡例
- 漁業関連用地
 - レクリエーション用地
 - 業務用地・産業用地



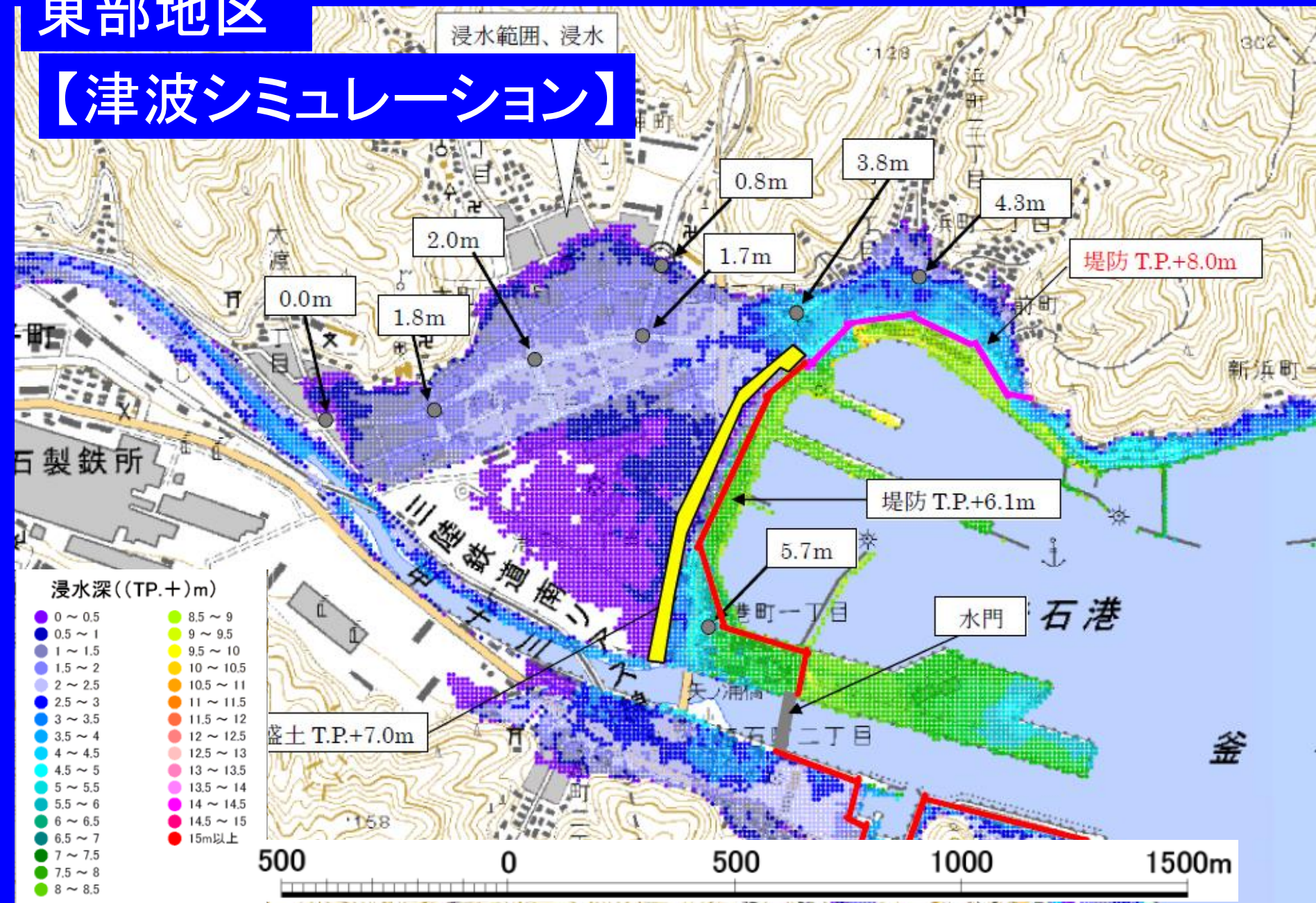
東部地区

【被災前】



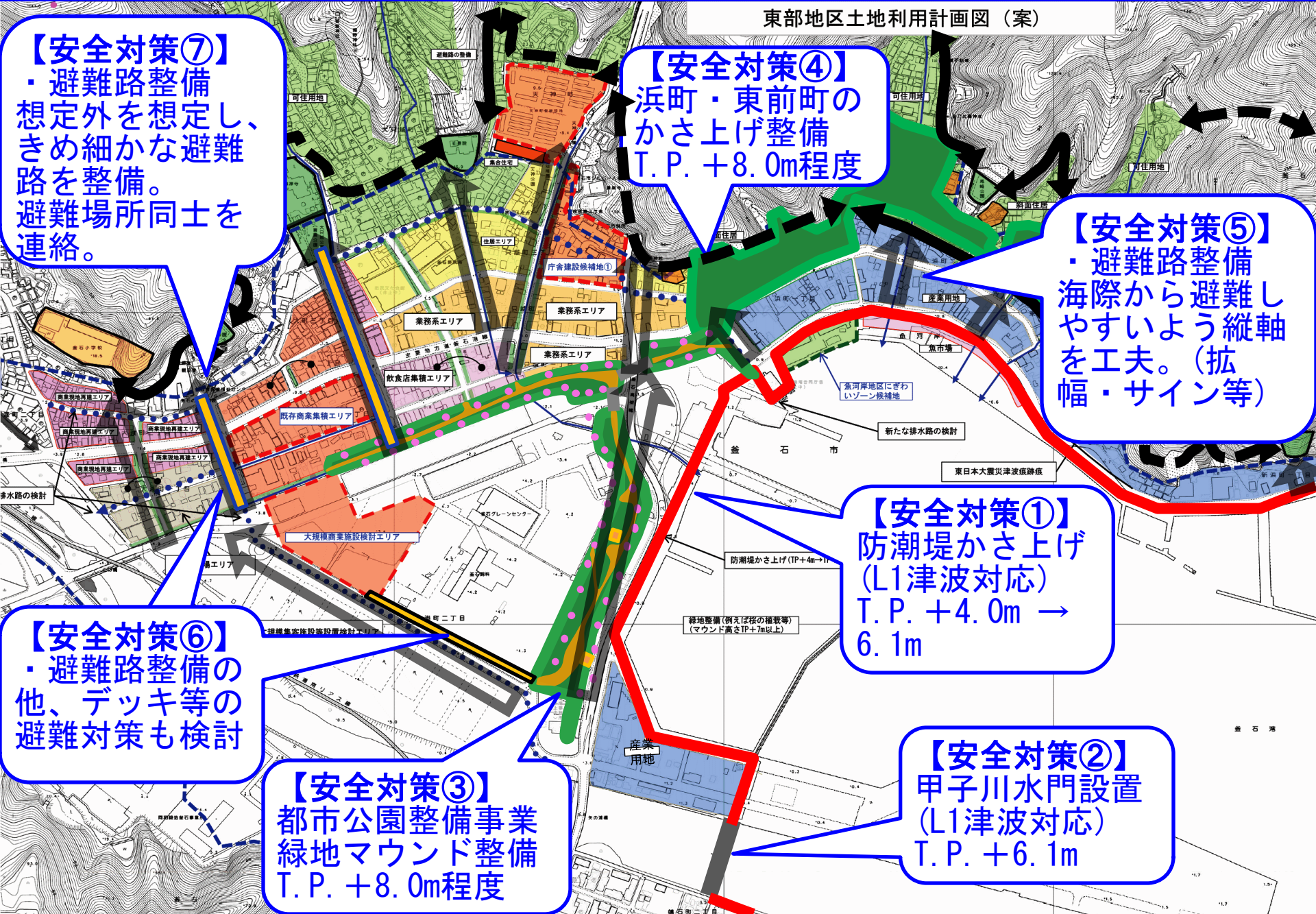
東部地区

【津波シミュレーション】



東部地区の安全確保について

東部地区土地利用計画図（案）



【安全対策⑦】
・避難路整備
想定外を想定し、
きめ細かな避難
路を整備。
避難場所同士を
連絡。

【安全対策④】
浜町・東前町の
かさ上げ整備
T.P. +8.0m程度

【安全対策⑤】
・避難路整備
海際から避難し
やすいよう縦軸
を工夫。(拡
幅・サイン等)

【安全対策①】
防潮堤かさ上げ
(L1津波対応)
T.P. +4.0m →
6.1m

【安全対策②】
甲子川水門設置
(L1津波対応)
T.P. +6.1m

【安全対策⑥】
・避難路整備の
他、デッキ等の
避難対策も検討

【安全対策③】
都市公園整備事業
緑地マウンド整備
T.P. +8.0m程度

排水路の検討

大規模商業施設検討エリア

緑地整備(例えば桜の植栽等)
(マウンド高さTP+7m以上)

防潮堤かさ上げ(TP+4m→TP+6.1m)

新たな排水路の検討

漁河岸地区にぎわいゾーン候補地

東日本大震災津波浸水跡

商業系エリア

飲食店集積エリア

既存商業集積エリア

住宅系エリア

高層住宅

可住用地

庁舎建設候補地①

産業用地

住宅系エリア

可住用地

可住用地

住宅系エリア

可住用地

魚市場

産業用地

住宅系エリア

可住用地

産業用地

住宅系エリア

住宅系エリア

住宅系エリア

住宅系エリア

住宅系エリア

住宅系エリア

住宅系エリア

可住用地

産業用地

住宅系エリア

住宅系エリア

住宅系エリア

住宅系エリア

住宅系エリア

住宅系エリア

住宅系エリア

可住用地

東部地区の「復興拠点プロジェクト」について 24

東部地区土地利用計画図（案）

【フロントプロジェクト2】
・市庁舎整備検討

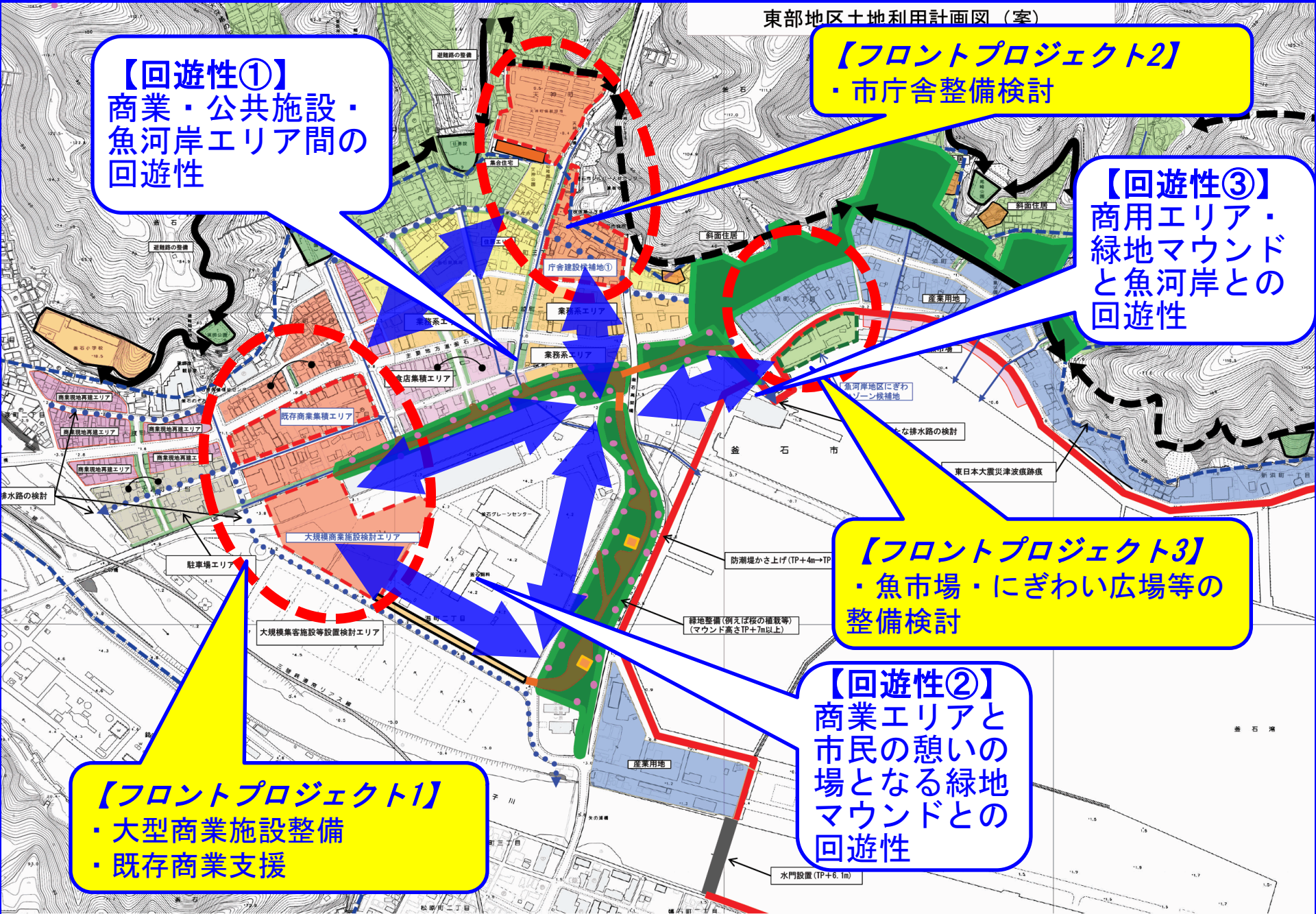
【回遊性①】
商業・公共施設・
魚河岸エリア間の
回遊性

【回遊性③】
商用エリア・
緑地マウンドと
魚河岸との
回遊性

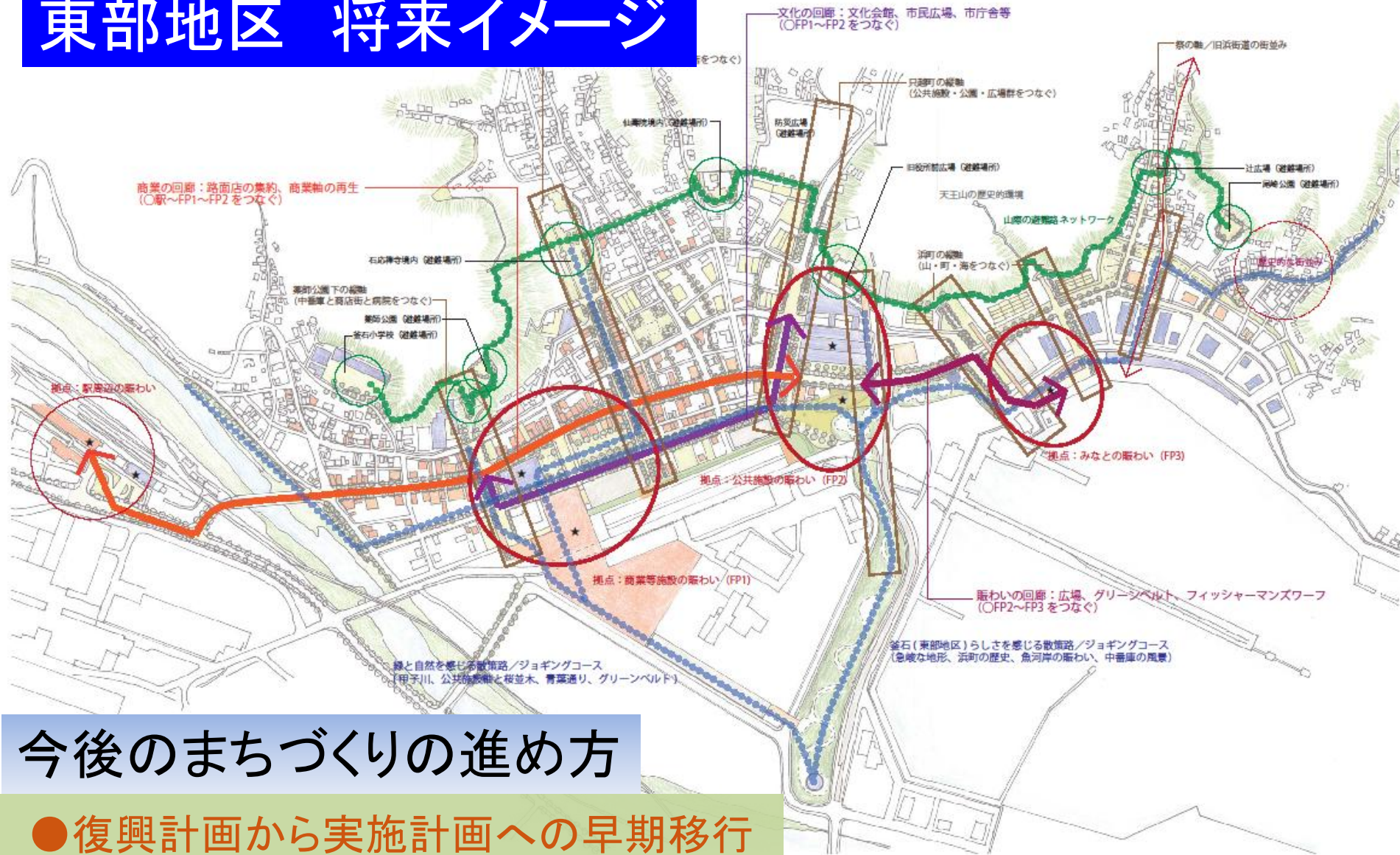
【フロントプロジェクト3】
・魚市場・にぎわい広場等の
整備検討

【回遊性②】
商業エリアと
市民の憩いの
場となる緑地
マウンドとの
回遊性

【フロントプロジェクト1】
・大型商業施設整備
・既存商業支援



東部地区 将来イメージ



今後のまちづくりの進め方

- 復興計画から実施計画への早期移行
- 住民が主役の復興事業推進

釜石市環境未来都市構想

～全国の小都市に先駆ける 釜石の新たな挑戦～

目指すべき将来像① 低炭素・省エネ・省資源による循環型社会



目指すべき将来像② 産業福祉都市かまいしの構築



エコ・ライフ・シティ(産業福祉都市)かまいしの実現

- ・新事業における高齢者の積極的な雇用
- ・古民家を再生して、高齢者の健康づくり
- ・元気な高齢者が高齢者を支える仕組みづくり

古民家を活用した健康づくり

古民家を再生

小水力発電

高齢者の積極的な雇用

サロンでの健康づくり

ICTを活用した見守り体制

応援センター

ICTを活用した見守り体制の構築

- ・簡易型スマートメーターの設置
- ・個別訪問、個別相談

ICTを活用した地域ネットワーク

総合+病院

基幹病院

福祉介護施設

診療所

災害時エネルギー確立

連携

応援センター

太陽光発電

避難

かまいし医療情報ネットワークの構築

- ・基幹病院と診療所、福祉介護施設のネットワーク構築

生活応援センターの体制強化

- ・太陽光発電設備を整備
- ・医療機関との連携強化

目指すべき将来像③ 釜石フィールドミュージアム構想



- 橋野高炉跡及び関連施設の
世界文化遺産登録の推進
- グリーンツーリズム

橋野高炉跡インフォメーションセンター

多目的公園

- 多目的公園(スタジアム)の整備
- ラグビーの普及促進

- ものづくりの文化を活かした新産業
の創出 (CCM合金産業の創出)

- 鉱山ニューツーリズムの創出
・産業観光をテーマとした体験型
観光の創出

- 鉄の歴史教育の展開
- 近代化産業遺産群の普及啓発



ラグビーW杯釜石大会誘致にむけて



2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップの試合を

復興のシンボルとして **岩手・釜石市**で開催したい

復興道路

地域の早期復興のため、
三陸沿岸を縦につなぐ
三陸沿岸道路「復興道路」
(仙台～八戸 延長約360km)
と、

沿岸部と内陸部をつなぐ
「復興支援道路」
が事業化されています。

釜石はその結節点として
交通利便性が高くなります。



被災者が抱える課題と対策

課題

- 「収入が断たれ借金だけが残ってしまった」、「高齢者の働ける職業がない」など ……生活再建
- 「養殖事業の収入安定化には数年かかる」、「以前の事業には支援されるが、新規事業は支援されない」など ……事業再建
- 「心的外傷性ストレス障害PTSD」、「一人住まいの高齢者や障害者が多い」など ……病気、高齢
- 「通学が不便」、「遊べる友達や遊び場がない」など ……子供の生活環境
- 「気軽に集える場所がない」、「隣人間トラブル」など ……コミュニティー
- 「部屋が狭く、物が置けない」、「隣人の会話が筒抜け」など ……仮設住宅環境

被災者が抱える課題と対策

対策

- ①住民間のコミュニティ形成や行政とのパイプ役として仮設住宅団地に自治会を設立
- ②保健師や看護師が定期的に被災者を訪問し、健康チェックや悩み事相談に対応
- ③仮設住宅団地支援連絡員を配置
 - ・仮設住宅の見回り
 - ・困り事相談対応
 - ・自治会活動のお手伝い
 - ・ボランティアなどの支援・・・など



ご清聴ありがとうございました

世界遺産登録を目指す「橋野高炉跡」

(国指定遺跡・岩手県釜石市所在)